

あなたがいるから

<2月の聖句>

だから、わたしが愛し、慕っている兄弟たち、わたしの喜びであり、冠である愛する人たち、このように主によってしっかりと立ちなさい。

(フィリピの信徒への手紙4：1)

わが子の大切な記念として、日本では「へその緒」を桐箱にとっておくことがよくあります。生まれてきた赤ちゃんと母親との深い絆を表すものですが、実はこれ、日本独特の風習で、諸外国にはあまり見られないそうです。

一方、ある外国の方が「わたしも、わが子の大切なものをもってあります。彼が生まれて初めて履いた靴です」と教えてくれました。聞けば、「最初の靴」とは、愛するわが子が初めて、親の腕の中から離れ、自分の足で立ち上がり、一人で歩みだしたことの記念である、と。

親が子を大切に庇護したしるし「へその緒」と、親の庇護から子どもが最初に離れ、独り立ちしたしるし「最初の靴」。同じ愛するわが子の思い出ですが、こうも違う。裏と表、まったく逆の発想をするものだなあと思いました。でも、今月の生活展で岩倉政城先生のお話を聞いていて、この2つは実は逆ではなく、同じことを言っているのかもと考えなおしました。自分の足で親元を離れられるのは、どんなときでもお母さん、あるいはお父さんが見ていて、自分を守ってくれるとの信頼があってこそ。信頼がしっかり根付いたから、安心して初めてのものや面白そうなもの、家族以外の人にも向かっていける、と。

心の「へその緒」がしっかりとつながっているから、「最初の靴」に足を通すことができる。このことを、今月の聖句は次のように言葉をかえて言います。

「主によって、しっかりと立ちなさい」。

「主によって」。すなわち、やせ我慢して一人で頑張るって立てと言うのではありません。神さまと一緒に立っているのです。神さまはね、あなたのことが大好きだよ、いつも見ていて、守ってくれているよ。だから、あなたは大丈夫。安心して「靴」をはいて。歩きだしていいんだよ。つらいとき、怖いときもあるだろう。そんなとき、いつでも戻ってきなさい。そう励ましてくれています。

(つくし保育園園長 つだかずお)

<お庭のチャペル 礼拝のご案内>

毎週日曜日午前10時30分 だいが教会

子どもに向けたお話もあります。どうぞ家族でお越しください。